付編　小松市内粘土室墳出土土器

本編は、過去に小松市内で調査された、所謂箱形粘土槨（南加賀型木芯粘土室）を内部主体とする古墳の出土土器を再実測により集成したものである。一部、主体部の異なるもの、あるいは不明のものも、関連性を重視して掲載している。また、実測は、小松市立博物館においてほぼ完形状態で保管されているものに限った。

いずれの調査例も古く、保管状況も良好ではないので、検討余地を多分に残しているものが主体を占めている。古墳との照合が不明確なものについては、その資料的価値が半減するものと思われる。しかし、小松市の６世紀代古墳出土資料の大半が提示されていないという状況は非常に憂慮すべきことで、あえて、保管上混乱を生じているものも含めて再掲載することにした。今回掲載対象から除外した、符津石山古墳等の石室関連資料は、別の機会に集成したい。

紙幅の関係で、詳細な遺物の検討はできなかったが、最後に土器観察表としてまとめたので参照されたい。以下に、個々の遺跡について、簡単に概要の説明を加えておく。

埴田後山明神１号墳（付第１図）

遺物は、小松市立国府小学校に保管されていた。遺物には墨書の注記が明確に記されており、「発掘場所　国府村字埴田ト343番地畑地、発掘年月 昭和27年12月25日」とある。後山明神２号墳は、昭和29年８月９日の発掘であるので、これが１号墳の出土遺物であることは、ほぼ確実と思われる。地番は、昭和30年代に換地処分を受けた区域にあたり、古い公図による照合は困難であるが、本文第22図のＥに該当する公算が大きい。掲載遺物の３のみが、小松市立博物館で後山古墳出土と伝えられているものであるが、国府小保管遺物の注記の一括性から、３は該当しないと考えるべきかもしれない。

念仏林古墳（付第２・３図）

昭和24年７月、小松高等学校地歴班考古学部が実施した縄文遺跡調査により、偶然発見された粘土室の初例である（小松高1949）。位置は、「島町蓑輪地方国有念仏林の南西部の突端」とあるが、明確にはしがたい。近年の念仏林地区の調査成果からみれば、現在念仏林遺跡とされている地点ではなく昭和59～61年に小松市で調査した念仏林南遺跡付近が該当するようである。

本墳出土遺物は、保管状況が最も良好で、ほぼ報告書との照合を成し得た。遺物番号にカッコ書きで記した文字は、報告書の遺物記号に合致する。ただ、保管遺物が１点多く、３・４・５の内いずれかが報告書のル・カに該当すると思われる。

蓑輪塚古墳（付第４・５・６図）

昭和28年８月、小松実業高等学校地歴クラブと石川考古学研究会が調査した（小松実高1954）。古墳は、前方後円墳であるが、粟津病院拡張工事中の調査であって、後円部の半分は削り取られ

ており、また、前方部も工場建設ですでに大部分が消滅した状態であった。粘土室は、前方部と後円部の接合点で検出されており、これが本墳唯一の主体部であった可能性は薄い。後円部では、墳丘断面で凝灰岩の「しっくい」を認めたとされており、凝灰岩の切石積横穴式石室を構築していた可能性もある。

土器は、主体部内南西のコーナー部に集積された状態で出土しているが、後円部西斜面でも須恵器坏４点が検出されたとしており、保管している遺物は両者混在していると思われる。報告書と照合成し得たものは、カッコ書きでその記号を記したが、蓋坏では殆ど不可能であった。ただし、保管状況から、本墳出土の一括遺物と考えて良いものと思われる。

矢田借屋８号墳（付第７図）

昭和36年７月、小松高等学校地歴クラブが、工場建設で借屋古墳群が破壊されている途中で寸前に調査した（小松高1962）。本古墳群最後の調査である。全長約30ｍ強の前方後円墳で、当群内では７号墳も同様の規模・墳形である。墳丘自体の遺存状態は非常に良好であったが、主体部はすでに盗掘により破壊されていた。報告書では、「礫棺（礫床粘土棺とも考えられる）」としているが、「礫と凝灰岩の相当大きな部分」を検出したとされており、切石積横穴式石室を内部主体としていたとも考えられる。そうであれば、江沼地域最古の例に該当することとなる。また、くびれ部に埴輪列を検出している。

遺物の出土状態は不明であるが、土器への注記はしっかりしており、掲載した大部分が本墳の一括遺物と思われる。（Ｐ105参照）

矢田借屋７号墳（付第８図）

昭和30年７月、小松高等学校地歴クラブが、土砂採集事業による破壊の進行中に調査した（小松高1956）。全長約34ｍの前方後円墳で、西半分が大きく削り取られていたが、主体部を検出している。主体部は「礫棺と粘土棺の折衷様式ともいうべき」と表現されており、河原石積の横穴式石室の可能性が高い。また、埴輪を伴っている。

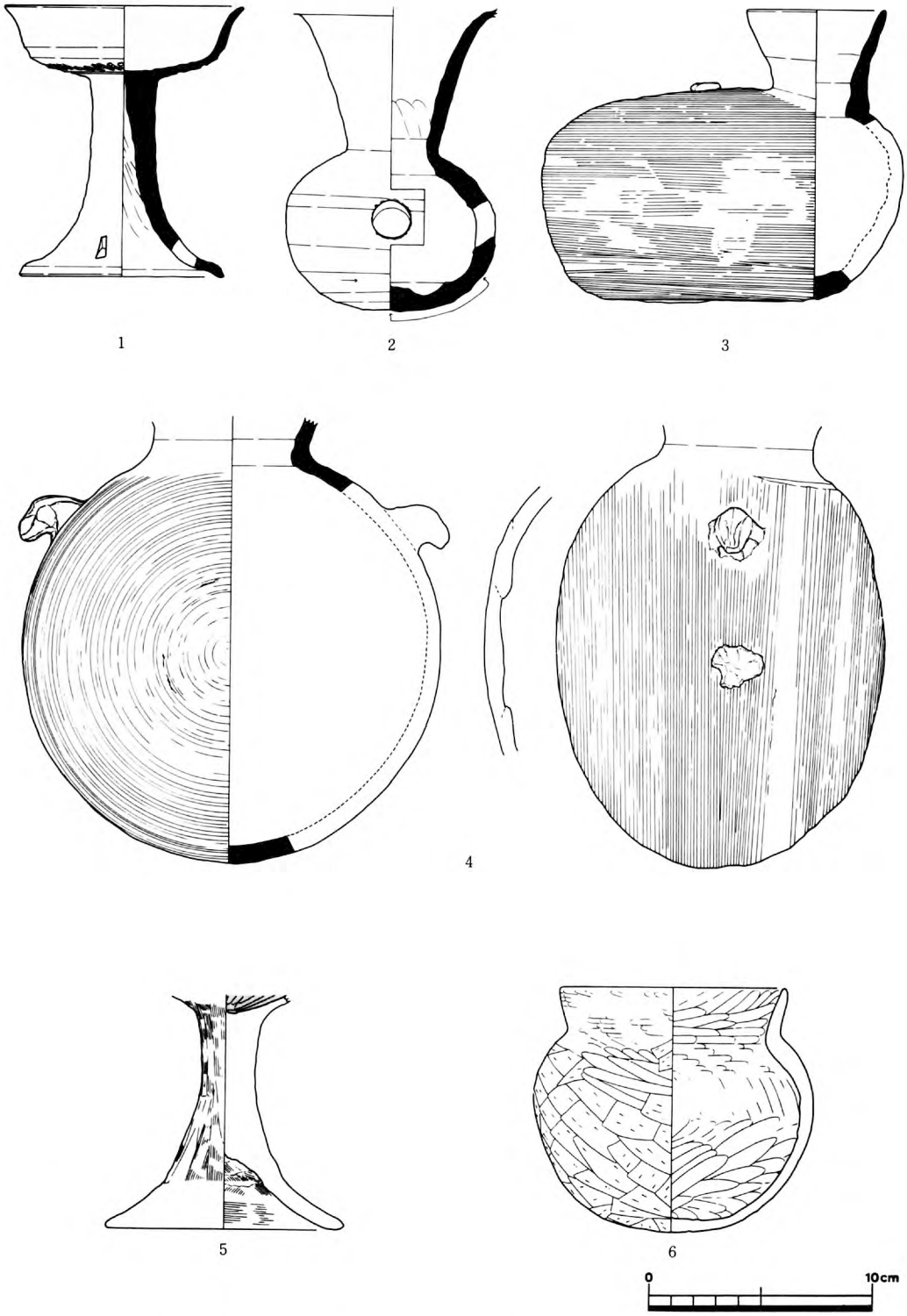
出土遺物は、保管が最も混乱しているもので、明確にできたのは１と２のみである。そのほかの蓋坏類は、４号墳出土遺物から除外されたものを一括したかたちで掲載した。本墳出土の可能性を指摘できる程度のものである。

矢田借屋４号墳（付第９・10図）

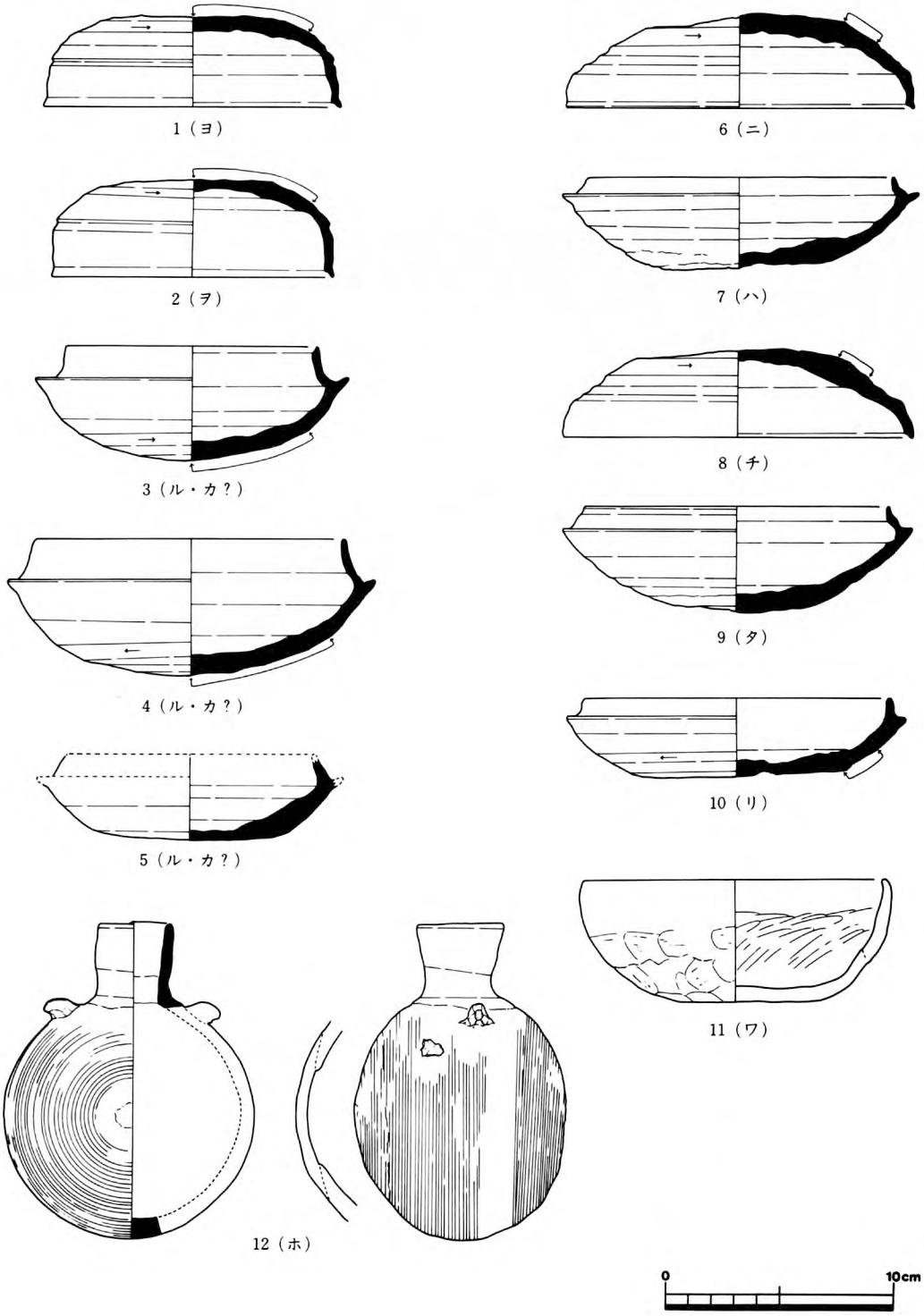
昭和25年８月、小松高等学校地歴クラブ考古学研究班が、粘土室の研究を目的として学術調査を実施した（小松高1951）。調査対象は２号墳と４号墳で、ともに径10ｍ程の円墳である。両方から粘土室を発見したが、２号墳の出土土器は須恵器破片が２点のみであった。従って、掲載したのは、すべて４号墳のものである。

報告書との照合が困難なものも多いが、ほぼ確実と思われるものを抽出して掲載した。

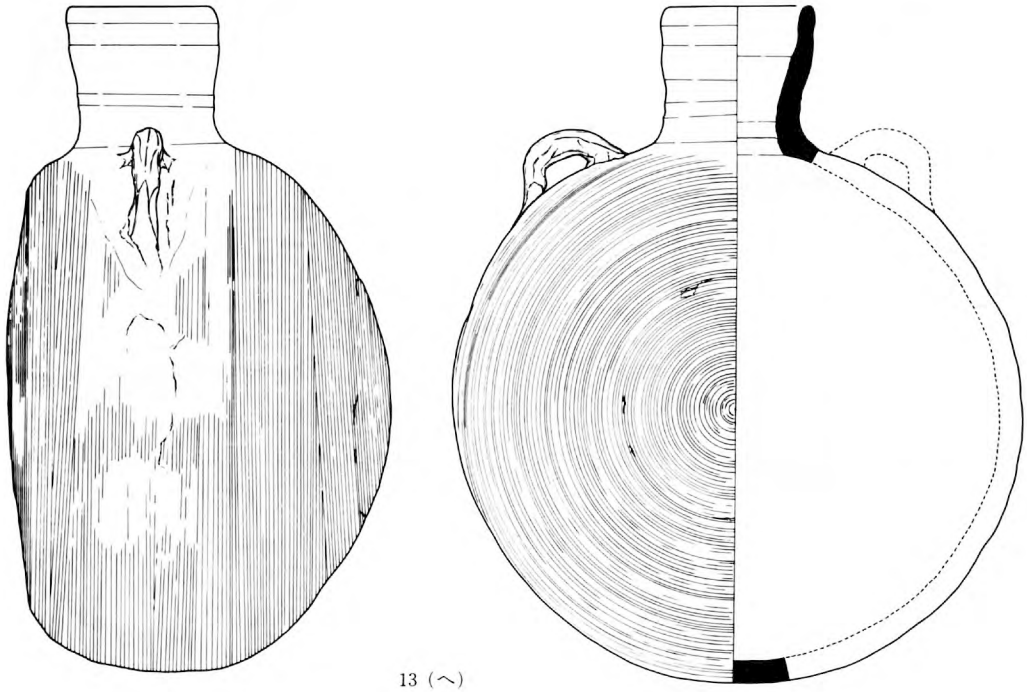
以上である。文献は、本文の引用・参考文献を参照されたい。



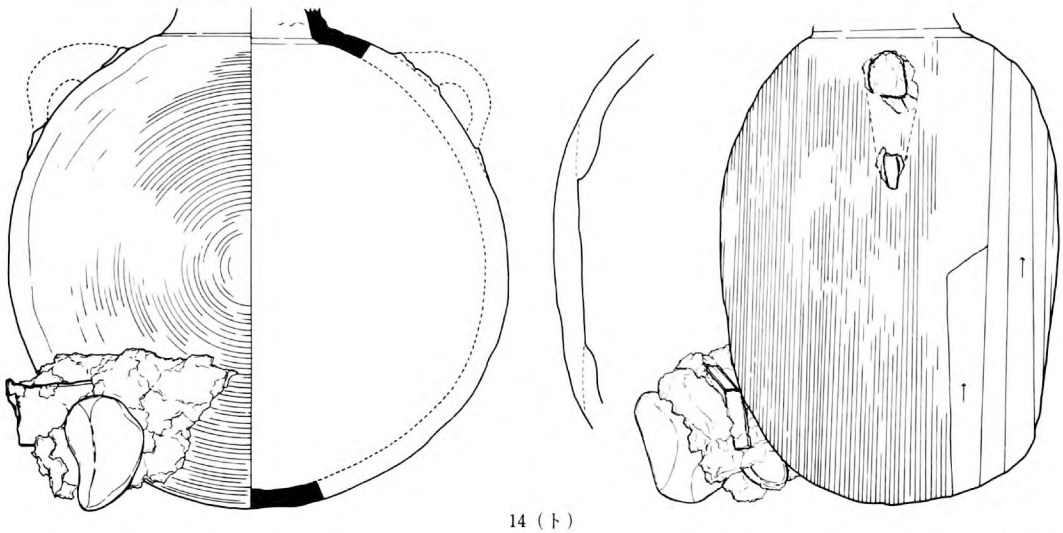
付第１図　埴田後山明神１号墳出土土器実測図（Ｓ＝⅓）



付第２図　念仏林古墳出土土器実測図（Ｓ＝⅓）

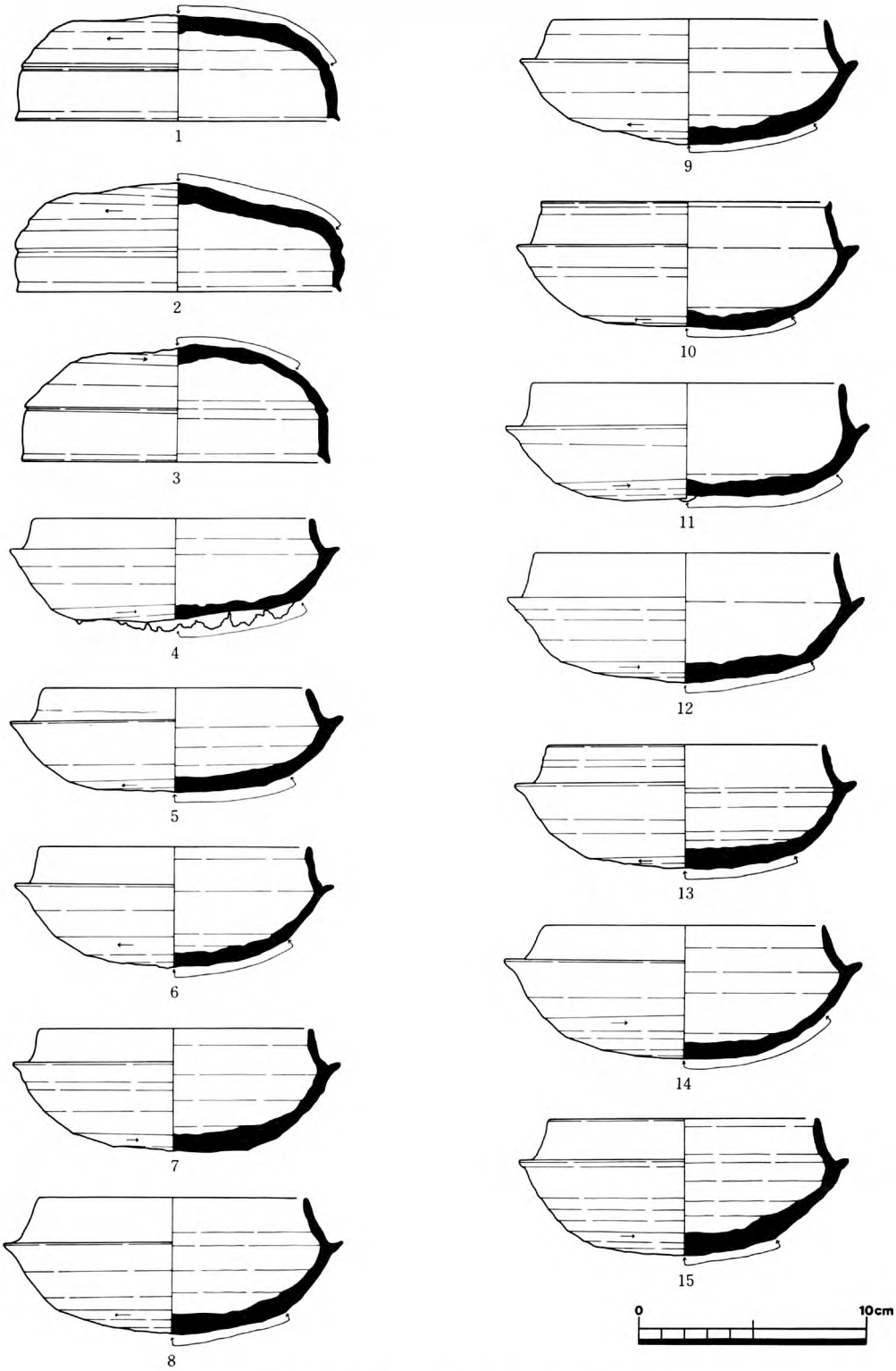


13（へ）

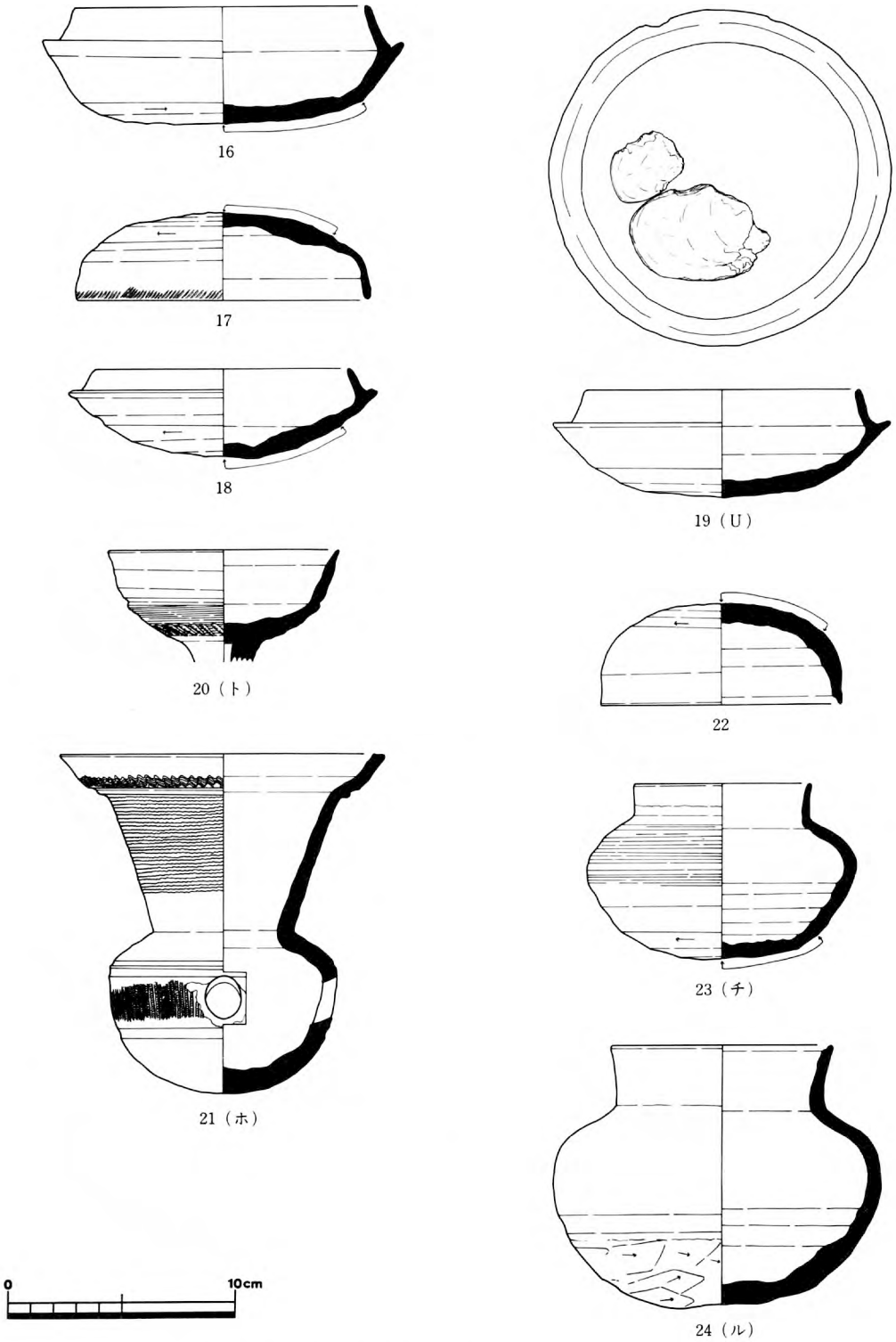


14（ト）

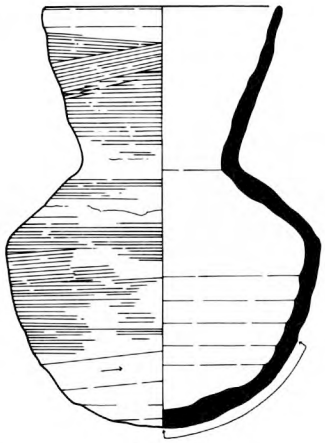
付第３図　念仏林古墳出土土器実測図（Ｓ＝⅓）



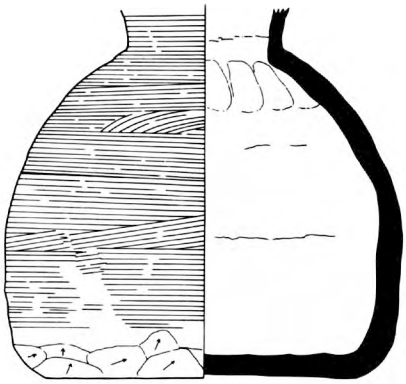
付第４図　蓑輪塚古墳出土土器実測図（Ｓ＝⅓）



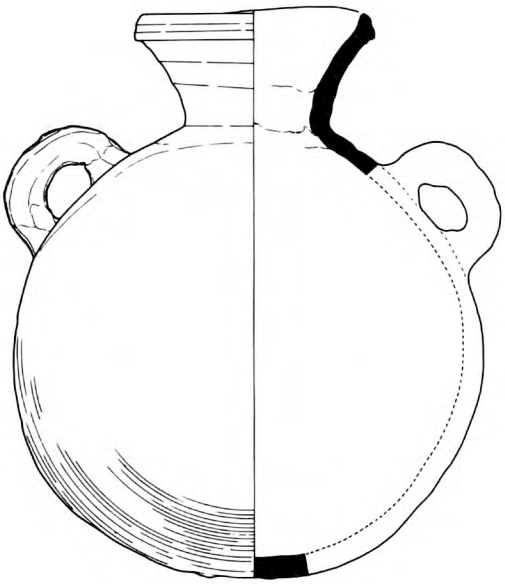
付第５図　蓑輪塚古墳出土土器実測図（Ｓ＝⅓）



25（ニ）

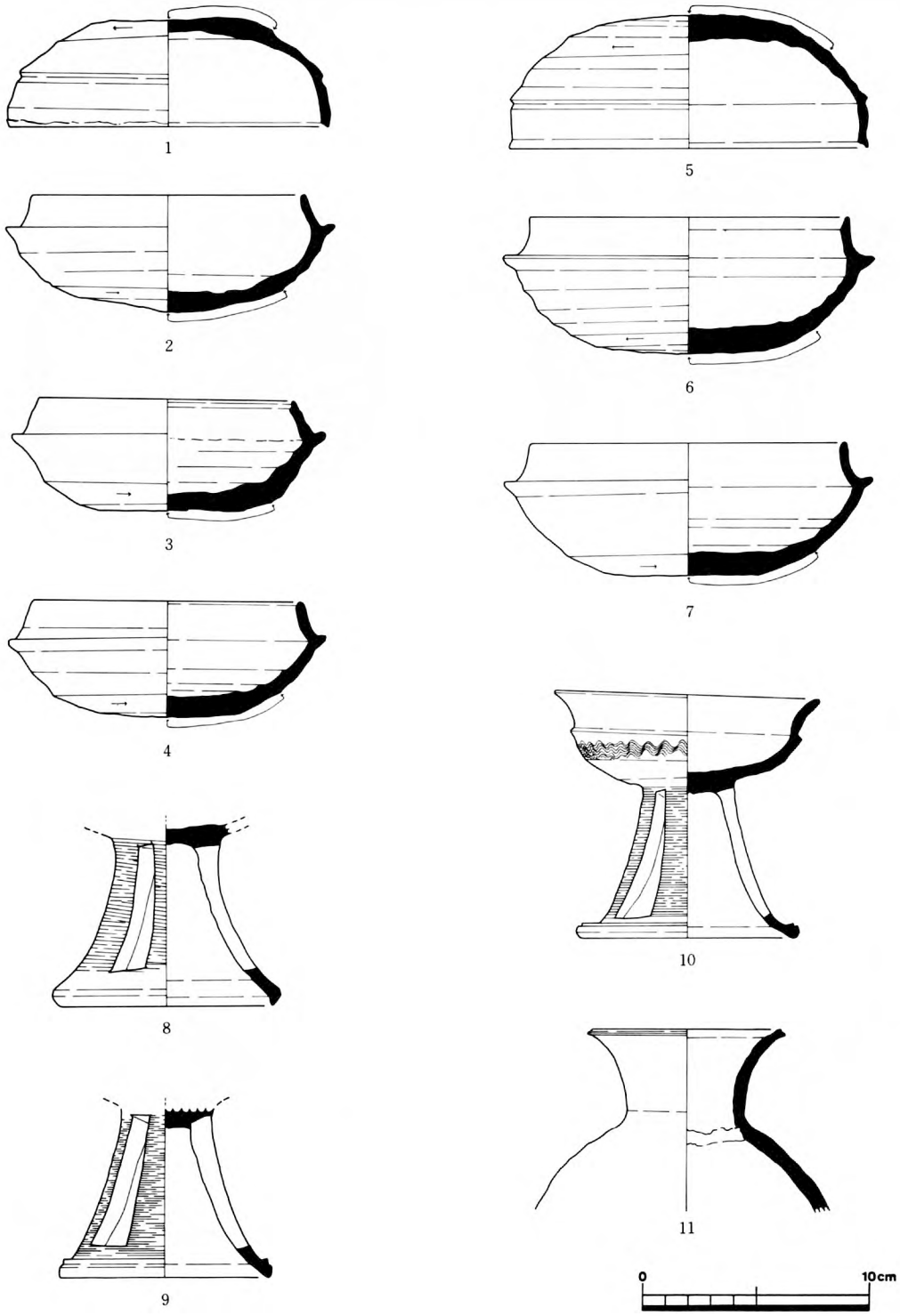


26（リ）

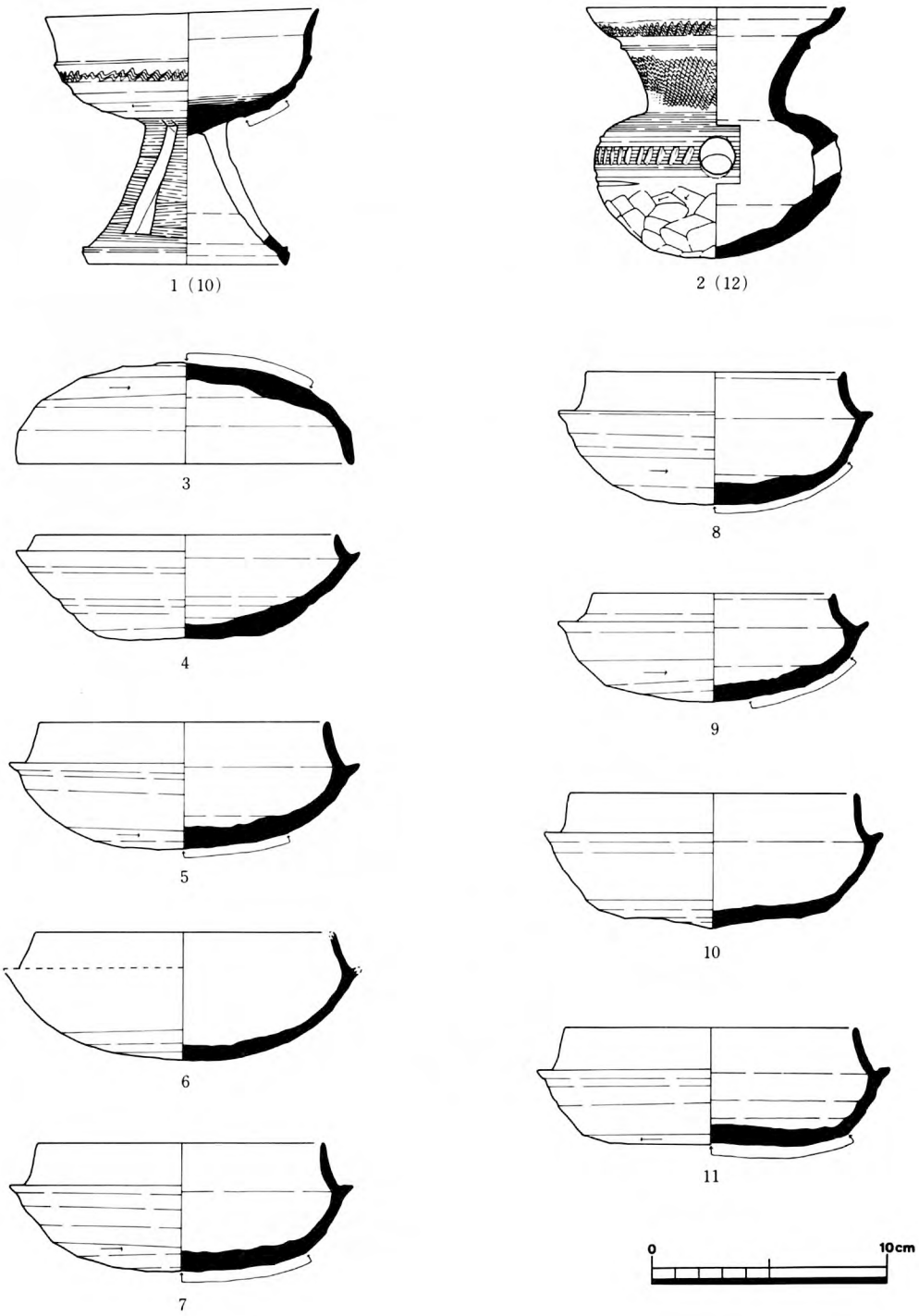


27（イ）

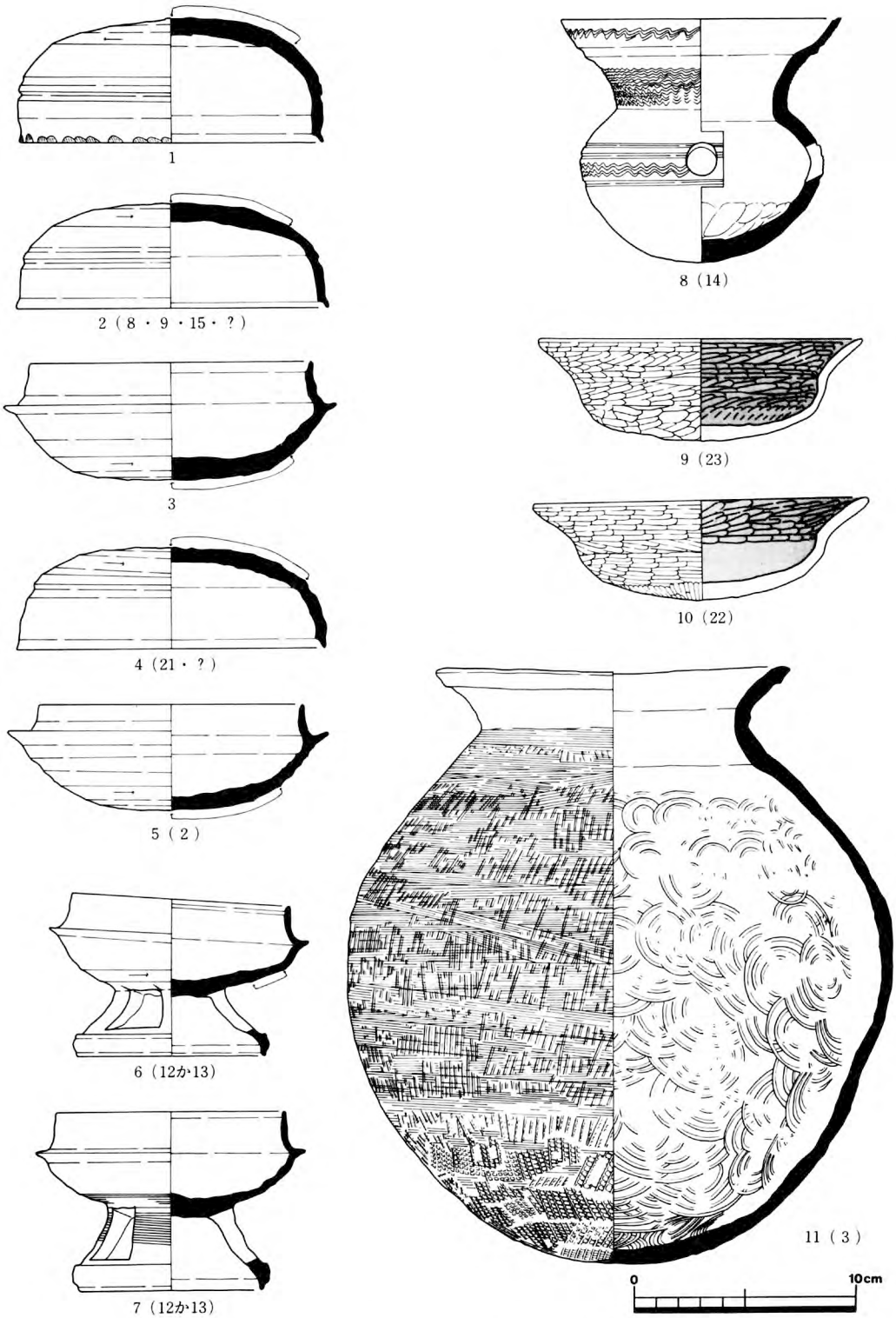
付第６図　蓑輪塚古墳出土土器実測図（Ｓ＝⅓）



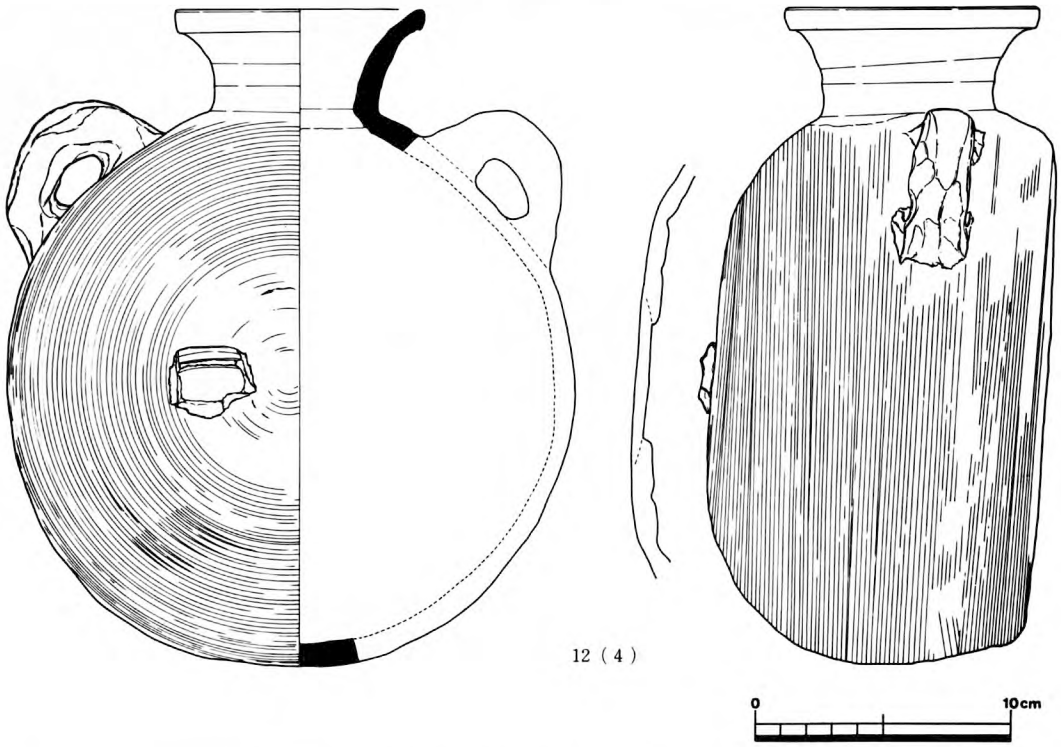
付第７図　矢田借屋８号墳出土土器実測図（Ｓ＝⅓）



付第８図　矢田借屋７号墳出土土器実測図（Ｓ＝⅓）

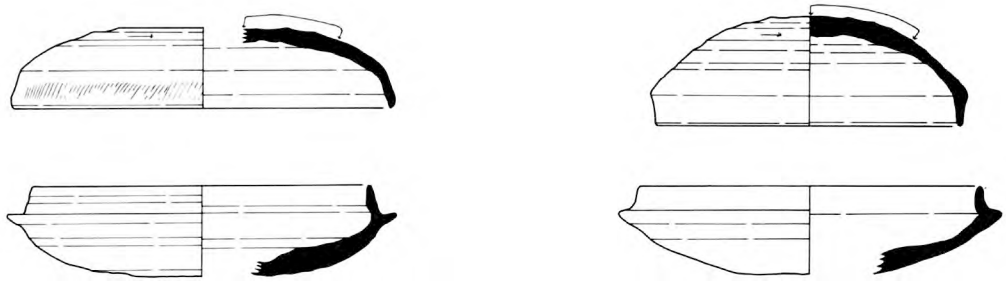


付第9図　矢田借屋4号墳出土土器実測図（S＝⅓）



付第10図　矢田借屋４号墳出土土器実測図（Ｓ＝⅓）

脱稿後、借屋８号墳出土とされる小破片の保管箱を見つけ、点検したところ、付第７図掲載蓋坏類とは、明らかに時期の異なるものが含まれていることが判明した。借屋８号墳出土遺物の注記は全て「36･8」という年月のみであるので、１号墳付近で採集したとする遺物との混在が予想される。ただ、保管遺物の内容の量比の関係から、８号墳から２時期にわたる遺物が検出されていた公算が大きいと思われる。



矢田借屋８号墳出土土器実測図（Ｓ＝⅓）付第７図に追加

土 器 観 察 表

須恵器・土師器等土器色調一覧

須恵器	①	灰白色
	②	やや青味がかった灰白色
	③	青味がかった灰白色
	④	青味がかった灰色
	⑤	灰色
	⑥	暗灰色
	⑦	青灰色
	⑧	やや暗い青灰色
	⑨	暗青灰色
	⑩	赤味がかった灰白色
	⑪	赤灰褐色
土師器	⑫	黄灰白色
	⑬	淡い黄灰白色
	⑭	やや淡い橙褐色
	⑮	赤褐色

須恵器・土師器等土器胎土一覧

須恵器	①	白色微砂粒を少量含む
	②	白色砂粒を通有量含む
	③	白色砂粒を多量含む
	④	小石・白色砂粒を少量含む
	⑤	小石・白色砂粒を多量に含む粗悪な胎土
	⑥	砂粒をほとんど含まない良質の胎土
	⑦	白色砂粒・小石を微量含むが、良質の胎土
	⑧	微砂粒を少量含む良質の胎土
土師器	⑨	砂粒を少量含む
	⑩	砂粒・小石を多量に含む粗悪な胎土

＊胎土記号に付したａ・ｂは、黒色土粒子の含有を示したもので、極めて多量に含むものをａ比較的多く含むものをｂとした。

付第１表　後山明神１号墳出土土器(付第１図)

番号	器種	法量(cm)	成形・調整 切り離し痕	色調 胎土	焼成	備考
1	高坏	口径10.7 底径 9.2 器高12.1	ヨコナデ	⑦ ③	良好	三方透し 坏部外面に櫛描刺突文
2	瓶		胴部下半に回転ヘラ削り、他はヨコナデ	④ ②	良	円孔を穿つ
3	平瓶	口径 6.1 底径 9.2 器高13.2	体部にカキ目、他はヨコナデ、肩部に円盤状粘土貼付 ナデにより切り離し痕を消去	③ ⑤b	良	外面の一部に自然釉付着
4	提瓶		体部にカキ目、他はヨコナデ、肩部に鉤形で左右一対の把手を付す	① ③a	良	外面の一部に自然釉付着
5	高坏 (土師器)	底径10.7	裾部にヨコナデ他はハケ目、坏部内面にヘラ磨き	⑭ ⑩	やや不良	内面黒色処理
6	小型壺形土器 (土師器)	口径10.1 器高11.0	体部下半にヘラ削り、他はヘラ磨き	⑮ ⑨	やや良	内面に黒斑

付第２表　念仏林古墳出土土器(付第２・３図)

番号	器種	法量(cm)	成形・調整 切り離し痕	色調 胎土	焼成	備考
1	坏蓋	口径13.0 器高 4.0	天井部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に同心円叩き痕	② ④	やや不良	
2	坏蓋	口径12.4 器高 4.3	天井部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ	② ②	やや不良	
3	坏身	口径11.1 器高 5.1	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ	① ①	不良	
4	坏身	口径13.5 器高 6.0	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ	(外① 断⑩) ③	不良	
5	坏身			① ③	不良	
6	坏蓋	口径15.2 器高 4.2	天井部付近に回転ヘラ削り、他はヨコナデ 回転ヘラ切り	③ ③a	良好	外面に自然釉付着
7	坏身	口径13.4 器高 4.1	ヨコナデ 回転ヘラ切り	④ ③	良	
8	坏蓋	口径15.2 器高 3.9	天井部付近に回転ヘラ削り、他はヨコナデ 回転ヘラ切り	③ ③a	良好	外面に自然釉付着
9	坏身	口径13.3 器高 4.7	ヨコナデ 回転ヘラ切り	④ ⑦	良	
10	坏身	口径13.3 器高 3.5	底部付近に回転ヘラ削り、他はヨコナデ 回転ヘラ切り	(内④ 外⑨) ③b	良好	
11	埦 (土師器)	口径13.2 器高 5.4	外面は体部下半にヘラ削り、内面はヘラ磨き、他はヨコナデ ナデにより切り離し痕を消去	⑮ ⑩	やや良	

番号	器種	法量(cm)	成形・調整 切り離し痕	色調 胎土	焼成	備考
12	小型提瓶	口径 3.7 器高14.0	体部にカキ目、他はヨコナデ、肩部に鉤形で左右一対の把手を付す	③ ③a	良好	外面の一部に自然釉付着
13	提瓶	口径 5.6 器高26.6	体部にカキ目、他はヨコナデ、肩部に環状の把手を付す	⑪ ③	良	外面の一部に自然釉付着
14	提瓶		体部にカキ目、回転ヘラ削り、他はヨコナデ	④ ⑦	良好	直刀先、小礫等錆の為付着

付第3表　蓑輪塚古墳出土土器(付第4～6図)

番号	器種	法量(cm)	成形・調整 切り離し痕	色調 胎土	焼成	備考
1	坏蓋	口径14.2 器高 4.7	天井部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ	④ ②	良	
2	坏蓋	口径14.2 器高 4.8	天井部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ	(内③ 外④ ④a	良	外面の一部に自然釉付着
3	坏蓋	口径13.5 器高 5.2	天井部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に同心円叩き痕	(内④ 外⑤ ④	良	
4	坏身	口径12.3 器高 4.5	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に同心円叩き痕	① ⑤a	良好	外面に自然釉付着、底部に砂塊溶着
5	坏身	口径11.7 器高 4.6	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に仕上げナデ	① ①	やや不良	
6	坏身	口径11.8 器高 5.4	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に同心円叩き痕	④ ④	良	
7	坏身	口径11.8 器高 5.5	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に同心円叩き痕	③ ②	やや良	
8	坏身	口径11.7 器高 6.0	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ	(内⑩ 外⑪ ①	やや不良	
9	坏身	口径12.0 器高 5.5	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に同心円叩き痕	② ④	やや良	
10	坏身	口径12.7 器高 5.6	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ	(内⑦ 外⑤ ①	良	
11	坏身	口径13.8 器高 5.1	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ	(内③ 外⑤ ④a	良好	底部に土器片溶着
12	坏身	口径13.4 器高 5.8	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に同心円叩き痕	(内⑨ 外③ ④	良好	外面の一部に自然釉付着
13	坏身	口径12.2 器高 5.4	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に仕上げナデ	④ ④	良	
14	坏身	口径12.2 器高 5.8	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に仕上げナデ	② ④b	良好	外面の一部に自然釉付着
15	坏身	口径11.7 器高 6.1	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に仕上げナデ	(内⑦ 外② ①b	良	
16	坏身	口径13.0 器高 5.2	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ	(内② 外⑥ ②a	良好	外面に自然釉付着
17	坏蓋	口径12.9 器高 3.9	天井部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央にナデツケ	⑨ ④	良	口縁端部に刻目文
18	坏身	口径11.3 器高 3.9	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央にナデツケ	⑨ ④	良	
19	坏身	口径12.2 器高 4.8	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ	③ ③b	良好	内に貝二枚有り
20	高坏	口径10.1	底部付近にカキ目、他はヨコナデ	⑥ ③	良好	底部付近に篦描刺突文
21	瓶	口径14.4 器高15.1	ヨコナデ	⑨ ①	良好	円孔を穿つ口縁部・頸部に波状文体部に櫛描刺突文
22	蓋	口径10.6 器高 4.5	天井部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ	(内④ 外⑤ ④	良好	
23	短頸壺	口径 7.8 器高 7.8	底部に回転ヘラ削り、肩部にカキ目、他はヨコナデ	① ①	良	
24	短頸壺	口径 9.6 器高11.7	体部下半にヘラ削り、他はヨコナデ	⑤ ③b	良好	内外面に自然釉付着
25	壺	口径 9.2 器高16.6	底部に回転ヘラ削り、外面にカキ目、他はヨコナデ	(内② 外④ ②	良	
26	壺		底部付近にヘラ削り、外面にカキ目、他はヨコナデ ナデにより切り離し痕を消去	④ ⑦	良	
27	提瓶	口径 8.7 器高22.6	体部の一部にカキ目、他はナデ 肩部に環状で左右一対の把手を付す	② ⑥	良好	内外面の一部に自然釉付着

付第4表　矢田借屋8号墳出土土器(付第7図)

番号	器種	法量(cm)	成形・調整 切り離し痕	色調 胎土	焼成	備考
1	坏蓋	口径14.1 器高 4.7	天井部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に仕上げナデ	⑦ ④	良好	
2	坏身	口径12.0 器高 5.7	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ	③ ③	やや不良	

番号	器種	法量(cm)	成形・調整 切り離し痕	色調 胎土	焼成	備考
3	坏身	口径11.3 器高 5.0	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ	④ ⑥	良好	
4	坏身	口径11.8 器高 5.2	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ	⑧ ④	良好	
5	坏蓋	口径15.8 器高 5.9	天井部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に仕上げナデ	(内① 外⑤ ④a	やや良	外面の一部に自然釉付着
6	坏身	口径13.9 器高 6.1	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に仕上げナデ	(内① 外⑥ ④a	良好	外面の一部に自然釉付着
7	坏身	口径14.0 器高 5.9	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央にナデツケ	① ④a	やや良	外面の一部に自然釉付着
8	高坏	底径 9.4	外面にカキ目、他はヨコナデ	⑨ ③b	良好	三方透し
9	高坏	底径 9.1	外面に櫛状工具によるナデ、他はヨコナデ	③ ③	良	三方透し
10	高坏	口径11.7 底径 9.5 器高10.8	脚外面に櫛状工具によるナデ、他はヨコナデ	⑨ ③	良	三方透し 坏部外面に波状文
11	壺 ?	口径 8.3				現物なし

付第5表　矢田借屋7号墳出土土器(付第8図)

番号	器種	法量(cm)	成形・調整 切り離し痕	色調 胎土	焼成	備考
1	高坏	口径11.6 底径 8.4 器高10.7	坏底部付近に回転ヘラ削り、脚部・内面中央にカキ目、他はヨコナデ	⑧ ⑦	良好	三方透し 坏部外面に波状文
2	瑞	口径11.0 器高1.7	肩部～体部中央にカキ目、体部下半ヘラ削り、他はヨコナデ	③ ③	やや良	円孔を穿つ口縁部・頸部に波状文体部に篦描刺突文
3	坏蓋	口径14.2 器高 4.3	天井部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に仕上げナデ	① ③	やや良	
4	坏身	口径12.8 器高44.5	ヨコナデ ナデにより切り離し痕を消去	② ②	やや良	
5	坏身	口径12.3 器高 5.5	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ	(内⑩ 外④ ⑤	やや良	
6	坏身	口径12.7 器高 5.5	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に同心円叩き痕	① ③b	不良	
7	坏身	口径12.1 器高 5.5	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に同心円叩き痕	⑨ ②	良好	
8	坏身	口径11.0 器高 5.7	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ	④ ②	良	外面の一部に自然釉付着
9	坏身	口径10.3 器高 4.7	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に同心円叩き	① ⑦	不良	
10	坏身	口径12.1 器高 5.8	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に同心円叩き痕	⑦ ②	良好	外面に自然釉付着
11	坏身	口径12.4 器高 5.1	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に仕上げナデ	③ ⑦b	良好	外面の一部に自然釉付着

付第6表　矢田借屋4号墳出土土器(付第9・10図)

番号	器種	法量(cm)	成形・調整 切り離し痕	色調 胎土	焼成	備考
1	坏蓋	口径13.8 器高 5.7	天井部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に同心円叩き痕	② ⑤	良	口縁端部に篦状工具による削り？
2	坏蓋	口径14.1 器高 4.8	天井部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に同心円叩き痕	④ ⑥	やや良	
3	坏身	口径12.8 器高 5.3	底部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ、内面中央に同心円叩き痕後仕上げナデ	③ ⑥	やや不良	
4	坏蓋	口径13.9 器高 4.6	天井部に回転ヘラ削り、他はヨコナデ	③ ③	良	
5	坏身	口径11.8 器高 4.8	底部に回転ヘラ削り後ナデ、他はヨコナデ	④ ⑦b	良好	受部に自然釉付着及び蓋重ね焼きの痕跡有り
6	有蓋高坏	口径 9.8 底径 8.4 器高 7.2	坏底部付近に回転ヘラ削り、他はヨコナデ	⑦ ⑦	良好	三方透し 受部に蓋重ね焼きの痕跡有り
7	有蓋高坏	口径10.2 底径 8.2 器高 8.1	坏底部付近～脚裾部にカキ目、他はヨコナデ	(外⑧ 断⑪ ⑥b	良好	三方透し 内外面に自然釉付着
8	瑞	口径12.6 器高11.0	ヨコナデ、内面中央に指圧痕	⑤ ③	良	円孔を穿つ口縁部・頸部・体部に波状文
9	鉢形土器(土師器)	口径14.7 器高 4.6	ヘラ磨き	⑭ ⑨	やや良	内面に黒色処理
10	鉢形土器(土師器)	口径14.9 器高 4.5	ヘラ磨き	⑭ ⑨	やや良	内面に黒色処理
11	甕	口径16.0 器高27.1	体部外面平行叩き後カキ目、内面同心円叩き後ナデ、他はヨコナデ	⑪ ③	良	
12	提瓶	口径 9.7 器高25.8	体部外面にカキ目、他はヨコナデ、肩部に環状で左右一対の把手を付す	② ②a	良好	外面の一部に自然釉及び坏蓋片付着